

# 令和5年度豊かなむらづくり全国表彰事業（近畿ブロック）

## 農林水産大臣賞

### 大原里づくりトライアングル（京都府京都市）



【朝市】



【観光梅園づくり】



【オオムラサキの放蝶会】

#### 【概要】

#### 1 むらづくりの動機・背景

大原地域は、史跡・名勝と農村景観・環境を資源とする観光地だが、道路整備等による利便性の向上と引き換えに、地域の風情が薄らいだことで観光客数が減少していた。

また、農業者の高齢化や後継者不足、水路等の老朽化、基盤整備や農地利用集積の遅れ、獣害の拡大などにより、農村景観の荒廃が課題となっていた。

2006年、関係団体がそれぞれ実施していた朝市、土地改良施設の維持管理、水生生物調査等の資源保全活動を、地域一体的・網羅的に取り組むため、京都大原土地改良区を事務局とする大原里づくりトライアングル（以下「里トラ」という。）を設立した。

#### 2 むらづくりの内容

里トラの構成員は、NPO 法人京都大原里づくり協会等の非農家組織が半数を占めており、地域住民が一体で取り組んでいる。

里トラは、2006年度に農地・水・環境保全向上対策のモデル事業として活動を始めて以来、

- （1）老朽化が進む農業用排水路や農道などの補修・更新による農業用施設の長寿命化
- （2）遊休農地を観光梅園へ再生することによる景観の向上
- （3）農地や河川敷を侵食する雑竹林の伐採による景観や防災に寄与する活動
- （4）京都市立大原小・中学校と連携した、水生生物調査やオオムラサキ（国蝶）の保護活動による環境保全意識の向上
- （5）女性が活躍する料理コンクールの開催による食文化の継承
- （6）農業者が店頭立つ朝市を開催し、生産者の顔や生産物への思いなどを伝えながら販売することによる持続可能な農業の実現と地域コミュニティの活性化などに取り組む。

農業振興を超えた幅広い活動を計画的、段階的に進めており、地区内外から19名の新規就農があるなど、担い手の確保をはじめとする地域活性化に大きく寄与している。

# 令和5年度豊かなむらづくり全国表彰事業（近畿ブロック）

## 農林水産大臣賞

### 飯見夢むら棚田の会（兵庫県宍粟市）



【食味検査最高得点者表彰】



【虫おくり】



【棚田の維持管理】

#### 【概要】

#### 1 むらづくりの動機・背景

飯見地区は、兵庫県の中西部に位置する宍粟市の山間部にある。播磨風土記からは、約1,300年前から米作りされていたことがうかがえ、良質な湧水や寒暖差のある気候を活かした、棚田での水稻栽培が盛んに行われてきた。

平成2年に完了したほ場整備により、約1,100枚の田が171枚となり、効率的な農業が可能となったが、一方で、米価の低迷に喘ぐ状況が続いていた。これを打破するため、平成17年に、規約の目的に「楽しい農業を目指す」とする飯見夢むら棚田の会（以下「棚田の会」という。）が発足した。

#### 2 むらづくりの内容

農業者が約8割を占める本地区において、棚田の会は、自治会、農水環境全クラブ、子ども会、消防団など多様な団体と密に連携しながら、会員が望む「地域ぐるみ」で取り組む楽しい農業」を実践している。具体的には、

- (1) 農村環境を地域全員で守ることを目標に取り組むことで地域の団結力を強化
- (2) 環境創造型農業（有機肥料、減農薬）等により米のブランド化を図り、併せて、自ら米価を決定することによる所得の向上
- (3) 食味検査最高得点者表彰や最高収量者表彰等を行い、地区全体で楽しみながら栽培技術を向上
- (4) 中山間直接支払交付金等を活用した棚田の維持管理と農業用施設の長寿命化
- (5) 地域の祭りや「虫おくり」などの行事に参画・開催し、伝統文化の継承、環境保全意識の向上及び都市農村交流の場を創出することによる地域活性化
- (6) 「新米まつり」の開催や都市部でのPRにより、観光客や米の買い手の誘致による販売促進

などに取り組む。

肩肘を張らずに、モチベーション高く楽しみながら行う様々な取組により、山間部の棚田という条件不利地において耕作放棄地が1筆もない状況となっている。また、先人から引き継がれた地域愛が、現在は非農家を含めた地域共通のものとなっている。

棚田の会の取り組みは、移住やUターンしやすい雰囲気を作り出し、担い手が進んで引き継ぐ実態に繋がるなど、地域活性化に大きく寄与している。